

- 1 「親と子のとしょかん」をリニューアルしました
新しい病棟（1階東棟）が開設しました
- 2 シリーズ 大阪母子医療センターの最先端・高度な医療
- 3 患者支援センター、南大阪 MOCO ネットのご紹介
- 4 セラピードックを紹介します、イベント報告

♡ 「親と子のとしょかん」をリニューアルしました

当センターには入院患者さんとそのご家族のための「親と子のとしょかん」があります。場所を移転して、2018年4月2日にリニューアルオープンしました。

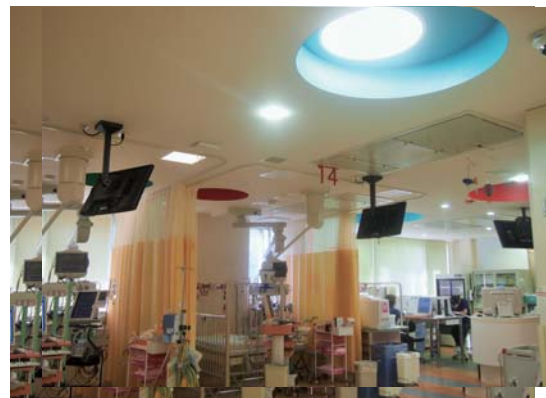
靴を脱いでお母さんのお膝で本を読んでもらったり、車いすのまま本を読んだりするスペースも出来ました。約7,000冊の児童書などを揃えたこの図書館では、絵本専門士の資格を持った司書が、テーマ展示や手に取りやすい配架などの工夫をしています。また、5月からは月1回「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせなどを行っています。母性棟に入院されている患者さんやご家族にも読書を楽しんでいただけるように大人用の図書も約700冊揃えています。病棟から離れ、リラックスできる空間になれば嬉しいです。

「親と子のとしょかん」では、これからも利用者の声を参考に、更に充実した図書館になるように努めてまいります。



♡ 新しい病棟（1階東棟）が開設しました

2018年4月から1階東棟8床を開設しました。1階東棟は、ICUと扉1枚でつながっており、ICUと1階東棟を医師は集中治療科が管理し、看護師は両棟をローテーションして看護を行っています。開設の目的は、主に「ICU管理が必要な急性期・集中管理を脱した患者さんの状態が安定し、病棟に転棟するまでの管理」「夜間緊急入院の受け入れ」を行うことです。また、今までは病棟で管理していた長時間の手術後や気道系の手術直後の患者さんの受け入れも行っています。



家族同室や24時間面会を可能とし、患者さんのご家族にとってはICUよりも病棟に近い療養環境を提供できると思います。



胎児治療という言葉が定着しつつあります。胎児治療とは、出生後の治療だけでは救命できないような、あるいは重症の後遺症の危険が高いような赤ちゃんの病気を対象にして、赤ちゃんが生まれる前に子宮の中で行う治療のことです。

胎児治療は、大きく分けると胎児鏡という小型の内視鏡を使って子宮内で行う手術（外科治療）と、お母さんに薬剤を投与して胎盤から赤ちゃんに移行させる薬物治療（内科治療）があります。超音波診断などによって生まれる前から病状が正確にわかるようになってきたことに伴って発展してきました。胎児治療には、治療効果と安全性が証明されて保険による治療が認められているものがあります。また、その他にも様々な期待されている治療があり、精力的に研究が進められています。以下は当センターで積極的に行っている胎児治療の一部です。

双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー手術

一つの胎盤を共有しているふたご（一絨毛膜双胎）においては、二人の血管が胎盤の中の複数の場所につながっています（血管吻合）。血管吻合を介してそれぞれのふたごの血液が一方的な方向に流れると、一人は血液不足（供血児）になり、もう一人は血液過剰（受血児）になります。その結果、それぞれのふたごは生命にかかわる危険を抱えます。この病気に対して、胎児鏡下レーザー手術が有効です。子宮内に挿入した胎児鏡によって胎盤の血管吻合を焼灼する根治的な手術です（図1）。

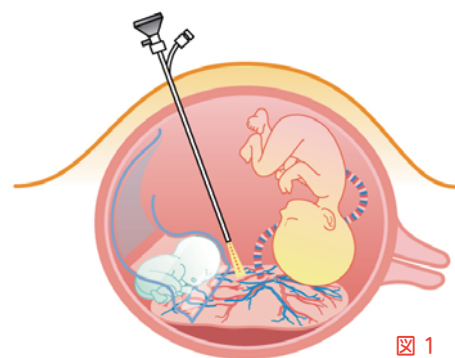


図1

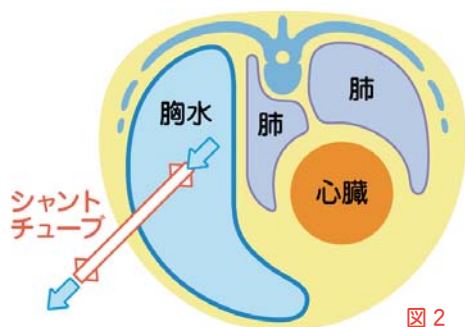


図2

胎児胸水に対する胸腔羊水腔シャント術

赤ちゃんの胸に胸水という水がたまることがあります。重症の場合は大量の胸水によって心臓や肺が圧迫されるため、胎児の時期から全身の状態が悪化することがあります。胸腔羊水腔シャント術は、超音波検査をしながら胎児の胸にカテーテルを挿入して、胎児の胸水を羊水中に逃がしてあげる治療です（図2）。心臓や肺への圧迫がとれると、赤ちゃんの回復が見込めます。

（石井産科主任部長）



患者支援センターのご案内

患者支援センターは母子医療センターで診察や治療を必要とする患者さんのための総合窓口です。サービスの主な内容は総合相談、小児がん相談、地域連携支援、在宅医療支援、入退院センターです。患者支援センターには医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、心理士、保健師、薬剤師、事務職員がいて、いろんな職種のスタッフが連携を図りながら、患者さんがより良い医療を受け、また家族とともに地域や家庭で安心して生活できることをサポートしています。

総合相談は子どもの病気や治療について、発育や発達で心配なこと、心理的な問題に関すること、養育に対する不安、在宅療養、小児がん、かかりつけ医の相談、医療費や福祉制度に関することなど様々な相談を受け、問題を解決するお手伝いをします。

在宅医療支援では医療的ケアを必要とする子どもと家族が地域で安心して生活していけるために、在宅医や訪問看護ステーションとの連携を図っています。入院治療から在宅医療への移行とその維持のため、在宅生活の相談、地域サービスの相談、医療評価入院の調整などを行っています。場所は看護外来にあります。

入退院センターは入院が決定した患者さんに入院までの説明や入院生活・病棟の説明をします。また、入院生活における心配ごとや質問をお聞きし、安心して入院生活を送ることができるようにお手伝いしています。

患者支援センターは1階ぼらんていあはうすの奥にあります。コアラのマークが目印です。何かありましたらどんな小さなことでもいつでも患者支援センターへお越しください。

（位田患者支援センター長、田家患者支援センター副センター長）

ここ数年、無痛分娩に関連した不幸な事故がニュースやネット上で取り上げられ話題となりました。無痛分娩は危ない、恐ろしいというイメージが一部に広まったことは間違いありません。新しい命の誕生は最高の喜びであり、誰もが笑顔になる特別な瞬間だと思います。しかし医療事故によってその後の状況に一人でも心の底から喜ぶことができないとすれば、ただただ残念であり心が痛みます。

無痛分娩の歴史は古く、1853年に英国で最初に施行されました。その後1940年代に米国で硬膜外麻酔による無痛分娩が施行され、現在欧米では広く硬膜外麻酔による無痛分娩が普及しています(フランスでは通常分娩の約80%が無痛分娩、日本では6.1%)。

無痛分娩を行うことによるメリットは

- ① 分娩進行過程の痛みがかなり軽減される
- ② 出産時に落ち着いてお子さんの誕生を迎えられる
- ③ 分娩中の体力が温存され、出産後早期に育児ができる
- ④ 陣痛発作時も胎児へ十分な酸素供給が維持される



などが挙げられます。一方、近年注目されている無痛分娩に伴う重篤な合併症は、その発生頻度は非常に低いのですがどこの施設でも起こりうると言えます。しかし、起こった合併症にどれだけ早く気づくか、そして適切に対応できるかは施設によって異なる可能性があります。合併症に対し早期に適切な対応を行えば、後遺症を残すことは非常に稀です。

当センターでは、無痛分娩を行うための計画分娩は行っていません。24時間365日、麻酔科医によって硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を開始していただけます。通常、分娩の進行に伴ってその痛みの部位や強さに変化します。無痛分娩開始後は麻酔科医が妊婦さんの痛みと分娩進行を見ながら、麻酔薬の投与量などを調節します。ですから分娩中は麻酔科医も頻りに妊婦さんの状態を診させていただきます。産科医師・分娩部スタッフと一丸となって、より安全で満足して頂けるお産になるよう努めております。無痛分娩について、皆様に正確な情報を提供した上で、様々な疑問・質問にお答えする場として無痛分娩教室も開催しております。多くの方にご利用いただければと存じます(詳細は母性外来にお問い合わせください)。

最後に、日本では欧米と文化や思想の違いがあるのは確かですが、総合周産期母子医療センターである当センターにおいても、分娩方法の選択枝の1つとして無痛分娩を安全に提供できる施設であり続けたいと思っております。

(橘麻酔科主任部長)

診療所で母子医療センターのカルテが閲覧できる

「南大阪MOCOネット」のご紹介

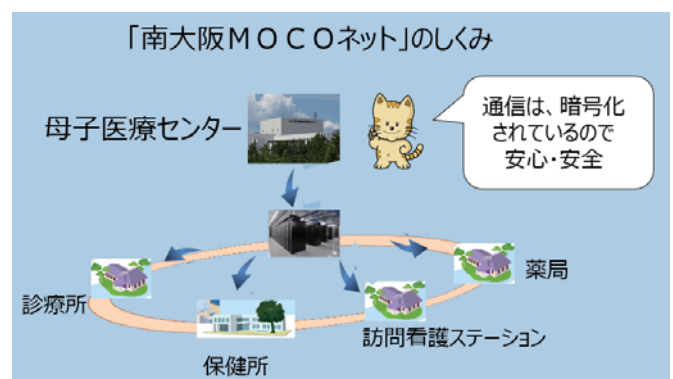
当センターでは、在宅医療の充実・推進のため、2018年3月から「南大阪MOCOネット」というシステムを運用開始しています。このシステムは、あらかじめ患者さんの同意を得た上で、診療所の先生方が当センターのカルテの内容を閲覧することができる仕組みです。

当センターでの治療を終えて自宅に戻るときに、在宅医療が必要な患者さんにとって、引き続き十分な医療サービスを受けることができるかと不安に思われることもあるかもしれません。

そんな時、この「南大阪MOCOネット」を活用すれば、地元のかかりつけ診療所の先生が、直接、当センターのカルテを閲覧することができます。どのような処置を行っていたのか、どのような薬を処方していたのかを確認することにより、引き続き、適切な医療サービスを滞りなく受けることができるのです。

今後は、訪問看護ステーションなど他の施設にも利用を広げてまいります。ご利用にあたっては、当センターの主治医にご相談ください。なお、利用料は無料です。

(位田副院長、山田情報企画室長)



♡ セラピードッグを紹介します

当センターでは、2016年12月から日本レスキュー協会と協働してセラピードッグを試験的に導入し、昨年度からは11日前後を「わんわんの日」として、セラピードッグの定期訪問が始まりました。

セラピードッグは、触れ合いや交流を通じて病気やけがの人、また、精神的な痛手を受けた人の不安を減らし気力を高め、心と体を癒す働きをする高度な訓練を受けた犬たちです。どこを触られても嫌がらないようにしつけられ、感染予防についても細心の注意が払われています。

今年度も子どもたちの闘病生活の中に笑顔を届けてくれるセラピードッグの訪問を計画しています。

みおん
海音
ちゃん

柴犬



にこり
ちゃん

ゴールデンレトリバー



みわ
皆輪
ちゃん

チワワ



イベント報告

TM & © 2018 Sesame Workshop
TM & © Universal Studios. All rights reserved.



5月9日(水)

「ユニバーサル・ワンダー・プレイルーム」
オープニングセレモニー



6月23日(土)

子育て応援フェア
(イオン堺鉄砲町店)



8月4日(土)

第9回きっずセミナー

ゆるキャラグランプリ

2018

毎日投票してニャン!

投票期間：11月9日(金)まで

大阪母子医療センター
オリジナルキャラクター

モコニャンに
投票をお願いします!



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域と連携して母子保健を充実させます
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
電話 0725-56-1220
FAX 0725-56-5682
<https://www.wch.opho.jp/>